

科目名	世界政治学 I (国際政治学)	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学科	□必修 ■選択	
			学科	□必修 □選択	
英文表記	International politics I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	いし かわ たけ いち	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	石 川 竹 一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	新型コロナウイルス時代に生きている西洋政治思想から世界（国際）政治の現実を解き明かす。				
到達目標	世界（国際）政治を理解する力を涵養するので、日々世界で起きている世界（国際）政治の実態が理解できるようになる。				
授業概要	現在の世界（国際）政治の枠組みは、西洋の政治思想を源流としている為、政治思想とその思想が生まれた背景を知ることが、現代の世界（国際）政治を深く知る上で必要である。西洋で生まれ現在に生きている政治学説を学び、その学習の基礎の上に立って、世界（国際）政治が過去どのような歩みを示し、地理、経済、社会、文化の背景の下で現在の形になったのか、新型コロナウイルス時代において、世界（国際）政治はどの方向に進んでいくのかを学び、その中で君はどう生きていくのかを考える。				
授業計画					
第1回	国際政治のあゆみ				
第2回	主権国家の誕生、判例研究：コソボ独立宣言事件				
第3回	ナショナリズムと帝国主義の時代				
第4回	第一次世界大戦、判例研究：ドイツ・オーストリア関税同盟事件				
第5回	第二次世界大戦				
第6回	冷戦、判例研究：旧ユーゴスラビア仲裁委員会				
第7回	国際政治の見方				
第8回	パワーと国益、判例研究：黒海境界確定事件				
第9回	対立と協調				
第10回	支配と従属、判例研究：ピノチェット事件				
第11回	規範と制度				
第12回	安全保障（新型コロナウイルス問題を含む）、判例研究：ハムダン事件				
第13回	国際政治経済、判例研究：マフェチニ事件				
第14回	国際政治における文化				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	毎日、新聞の一面を読んでおく。教科書の該当箇所を読んで、専門用語の意味等を理解しておくこと。前回講義に関する確認テストを行うので、しっかりと復習しておくこと。				
履修条件：受講のルール	私語は他の学生の迷惑になるので認めない。世界（国際）政治の実像を理解しようとする意欲。				
テキスト	国際政治学をつかむ、有斐閣、村田晃嗣他、2016				
参考文献・資料	平和政策（有斐閣、大芝亮、2006）、西洋政治思想史（佐々木毅、北樹出版、2009）				
成績評価の方法	課題読書のサマリーレポート10%、研究レポート10%、クイズ20%、試験30%、平常点30%（出席が規定に満たなかった場合、授業料その他納入金が未納の場合は試験を受けることができません。）				
オフィスアワー	月曜日11時～12時30分、月曜日13時～14時30分				
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)				

実務経験及び実務を活かした授業内容	国連条約機関本部に26年間勤務（12年間は事務次長）、数々の国際選挙・世界各国との政府間交渉・国際会議運営・国際機関の人事・管理・条約交渉など国際経済法執行のエキスパートであるので、自己体験としての国際政治学を教授する。
学生へのメッセージ	公務員志願者には受講を推奨。西洋政治思想から現代の世界（国際）政治を読み解くことによって現代の世界（国際）政治とその中の自己とが理解できるようになります。